

2006年度(2006年4月~2007年3月)日仏会館 事業報告

1 学術講座

1) シンポジウム: 年3回開催

・日仏シンポジウム「戦後60年の社会変容: 1968年と1989年で何がどう変わったか」

6月21日(水)17時~20時 (参加者:160名)

「68年五月革命の遺産をめぐる論争」イザベル・ソミエ(パリ第一大学助教授)

「日本の1968年、コンテスタシオン運動の終わり?」鶴飼 哲(一橋大学教授)

「1968年と1989年、大転換」ミシェル・ヴィヴィオルカ(社会科学高等研究院教授)

6月22日(木)17時~20時 (参加者:90名)

「私が見た日本社会の半世紀」ユベール・デュルト(国際仏教学大学院大学教授)

「他者としての朝鮮、在日文学の成立と変容」渡辺一民(立教大学名誉教授)

「村上春樹、ポストモダン日本における個人の運命」矢田部和彦(パリ第七大学助教授)

司会コーディネータ:三浦信孝(中央大学教授)

*後援:朝日新聞社

・日仏シンポジウム「先進国における食の変容」共催:東京大学現代ヨーロッパ経済史ユニット

10月7日(土)8日(日) (参加者:141名)

<セッション1> 変化する食のモデル

丸井 英二(順天堂大学)「日本の食は変わったか:独自性と普遍性の観点から」

クリスチアーヌ・グリニョン(フランス国立農学研究所 消費研究所)

「フランスの食:その特徴と傾向」

谷口 信和(東京大学)「日本における食生活の変貌と農業・食料産業の役割」

クロード・グリニョン(フランス国立農学研究所 消費研究所)

「未来のフランスにおける食は予測可能か?」

<セッション2> 食品供給の規格化、差異化、多様化

加瀬 和俊(東京大学)「牛乳・乳製品の経済史 - 生産・流通・消費の推移とその背景」

アレクサンドロ・スタンツィアーニ(フランス国立科学研究センター)

「食品品質の定義:健康保護と競争規律の間で

- 19~21世紀のヨーロッパとフランスを例にして」

高柳友彦(東京大学大学院)「戦間期日本の缶詰産業 生産・消費の関係」

フィリップ・マルシュネ、ロランス・ベラル

(フランス国立科学研究センター アリメンテック)

「フランスにおける“土地固有”の生産品:文化的側面と価値付け」

<セッション3> 経済的制約と食の選択

小野塚 知二(東京大学)「イギリス食文化衰退の社会経済的原因」

ピエール・コンブリ(フランス国立農学研究所 消費研究所)

「フランスにおける食品消費の変遷の経済的要因」

鬼頭 宏(上智大学)「近世 近代移行期の日本における食の体系:変容と格差」

フランス・カイヤヴェ(フランス国立農学研究所 消費研究所)

「格差、貧困と食の選択」

<セッション4> 食の(再)教育は必要か?

山本 茂(お茶の水女子大学)「日本の学校給食が食育に果たす役割」

アンナ・タキノ=プロット(パリ第10大学)「学校における食育実践の現実」

武見 ゆかり(女子栄養大学)

「地域社会における食育の推進:学校・地域、民間における食育活動の事例から」

アンヌ・ルイシエ(フランス国立農学研究所 消費研究所)

「フランスにおける予防栄養学:家族、食と健康、言葉から実践へ」

*後援:朝日新聞社

・日仏会館科学シンポジウム「我々を脅かす新しい病気 その病状と治療」

12月9日(土)10時~18時 *日仏自然科学系8学会と共催 (参加者:56名)

「ウイルスは人間にとってどのような存在か?」山内一也(東京大学名誉教授)

「人のインフルエンザ、鳥のインフルエンザ、新型インフルエンザ」

岡部信彦(国立感染症研究所ウイルス第一部、同所情報センター長)

「BSEとはどんな病気か?」小野寺 節(東京大学教授)

*後援:朝日新聞社

2) 文化講座

・「日仏戦後 60 年の社会変容」

- 5月17日(水) 18時 (参加者: 109名)
「戦後日本におけるフランス」加藤周一(評論家)
 - 5月24日(水) 18時 (参加者: 40名)
「19世紀史家から見た日仏戦後 60年」福井憲彦(学習院大学教授)
 - 5月31日(水) 18時 (参加者: 56名)
「靖国問題から見えてくるもの」高橋哲哉(東京大学教授)
 - 6月7日(水) 18時 (参加者: 28名)
「フランスと日本の『戦後』社会 民事法の視点を踏まえて」
金山直樹(慶応義塾大学教授)
 - 6月30日(金) 18時 (参加者: 67名)
「若い日本と老いたヨーロッパ?」池澤夏樹(作家)
- *後援: 朝日新聞社

・「啓蒙思想とフランス」

- 11月2日(木) 18時 (参加者: 53名)
「Honnête Homme から Philosophie へ - Versailles から Paris へ」
鈴木康司(日仏会館常務理事・元中央大学学長)
 - 「啓蒙時代初期の Paris - 絵画、音楽、演劇、都市計画など」
鷺見洋一(慶應義塾大学教授)
 - 11月9日(木) 18時 (参加者: 33名)
「モンテスキュー、『ペルシャ人の手紙』、『法の精神』」
川出良枝(東京大学大学院教授)
 - 11月16日(木) 18時 (参加者: 57名)
「ヴォルテールとルソー」小林善彦(東京大学名誉教授・日仏会館副理事長)
 - 11月30日(木) 18時 (参加者: 42名)
「ディドロとダランベール、『百科全書』をめぐる - 敵対者の立場から」
中川久定(日本学士院会員、京都大学名誉教授)
 - 12月1日(金) 18時 (参加者: 44名)
「啓蒙思想と大革命」遅塚忠躬(お茶の水女子大学名誉教授)
- *後援: 朝日新聞社

3) 春秋講座「さくら/もみじ」: 年2回開催

- ・春: 5月18日(木) 18時 (参加者: 75名)
「世俗化と宗教性の新しい形式」
ダニエル・エルピウ＝レジエ(国立社会科学高等研究院教授)
島蘭 進(東京大学教授)
- ・秋: 10月27日(金) 18時 (参加者: 130名)
「格差社会はいま?: フランスと日本」
ロベール・ボワイエ(経済学者)、橋木俊詔(京都大学経済学部教授)

2 日仏共同研究事業

日仏両国専門家の協力による有意義な研究計画に対する研究費援助。
日仏歴史学会「組織史の可能性 - 日仏の比較と関係のなかで - 」

3 第23回渋沢・クローデル賞

- 本賞: 寺戸淳子(専修大学ほか非常勤講師)
『ルルド傷病者巡礼の世界』(知泉書館 2006年)
 - ルイ・ヴィトン ジャパン特別賞: 鳥海基樹(首都大学東京准教授)
『オーダー・メイドの街づくり - パリの保全的刷新型「界限プラン」』
(学芸出版社 2004年)
- *表彰式 7月7日(金) 16時 会場: 日仏会館 1階ホール
仏側受賞者: アルノー・ナンタ(CNRS 助教授)
『日本列島の住民の起源に関する人類学的・考古学的考察: 1870~1990年』
(博士論文 2004年)

4 研究者交流事業

1) 日仏学者交流事業

招聘：アリエル・ベレスニアク Ariel BERESNIAK
(日仏薬学会推薦：パリ第5大学医療経済学応用学際研究所 研究監督責任者)
2006年5月21日～31日

招聘：クリスティーヌ・フォーレ Christine FAURÉ
(日仏女性研究学会推薦：Directrice de recherche au CNRS)
2006年11月7日～14日

2) 日仏科学研究者の集い

7月1日(土)14時～18時 (参加者：18名)
「海洋掘削研究船“ちきゅう(地球)”による地球の営みに関する研究」フィリップ・ガイヨ
「ミトコンドリア(RNA)の機能に関する新知見」藤田親雄
「日本の琴について 初歩的な解説と実演」ナタリー・アロウゼ

10月21日(土)14時～18時 (参加者：19名)
「推奨(褒美)の神経生理学」バーバラ・カニアル(理化学研究所)
「合成細胞化学 - 炭化水素の生物学的役割」アンナ・カタリナ・デュエール(理化学研究所)
「バルザック『人間喜劇』-世界という書物の読み方を学ぶ」中山和子(京都大学)
3月31日(土)14時～18時 (参加者：14名)
「航空機 Ys-11 とそのエピソード」
天野寛二(元 Jaxa 航空力学部門技師 現工学院大学非常勤教授)
「木の成長について」Nadia GOUE(理研植物科学センター)
「見物してその地方の地質が大体解るフランスとヨーロッパ」飯山敏道(東京大学名誉教授)

5 日仏関連学会連絡協議会

第1回：6月26日(月)18時、第2回：12月11日(月)18時

6 文化事業

1) 音楽と講演

・フランス音楽の夕べ *共催：日仏音楽協会
6月17日(土)19時 (参加者：115名)
「浜口奈々・山田富士子 ピアノ・ジョイント・リサイタル」
12月18日(月)19時 (参加者：136名)
「Chanter Noël～フランスのクリスマス」(企画・構成：コンセール・C)

・レクチャーコンサート：フランス音楽の歴史シリーズを年2回開催
5月25日(木)18時30分 (参加者：61名)
「20世紀音楽の始まり - ドビュッシーの創作活動を中心に」
笠羽映子(早稲田大学教授)
11月28日(火)18時30分 (参加者：87名)
「ガブリエル・フォーレの歌曲について」
金原礼子(元筑波大学教授)

2) 映像と講演 *共催：TMF 日仏メディア交流協会

6月28日(水)17時30分 (参加者：45名)
上映：「危険な関係 1960」
講演：萩野弘巳(放送大学客員教授、元NHK欧州総局長)
12月2日(火)18時 (参加者：58名)
「クールジャパンの時代到来！～熱気溢れるパリ JAPAN EXPO」
対談：磯村尚徳(パリ日本文化会館初代館長)
小口比菜子(NHKエンタープライズ・ウグゼキュティブプロデューサー)
2月2日(金)18時 (参加者：75名)
上映：「七つの大罪」
講演：萩野弘巳(放送大学客員教授、元NHK欧州総局長)

3) 月例講演会(フランス文化講演シリーズ)

- 4月18日(火)18時 (参加者:99名)
「ボーヴォワール:幸福探求の情熱」海老坂 武(フランス文学者)
*後援:日仏女性研究学会
- 5月15日(月)18時 (参加者:56名)
「パリの若者たち-初期雇用契約(CPE)をめぐる」
牛場暁夫(前パリ日本館館長・慶応義塾大学教授)
- 9月26日(火)18時 (参加者:33名)
「日仏ポピュリズム政治の危うさ」 国末憲人(朝日新聞社外報部記者)
- 10月20日(金)17時30分 (参加者:33名)
「アンコール・ワットと日仏文化協力」
石澤良昭(上智大学長、上智大学アンコール遺跡国際調査団長)
- 11月20日(月)18時 (参加者:21名)
「萩原朔太郎とフランス」 安藤元雄(詩人・明治大学名誉教授)
- 12月15日(金)18時 (参加者:68名)
「和菓子:パリでの奮戦記」大山基夫(トラヤ フランス支配人)
- 1月17日(水)18時 (参加者:68名)
「私のシネマライフ-フランス映画のことなど」高野悦子(岩波ホール総支配人)
- 2月19日(月)18時 (参加者:61名)
「パリの『オーダーメイドの街づくり』」
鳥海基樹(首都大学東京准教授、2006年度渋沢クロード賞受賞者)

4) 美術講演会

- 4月10日(月)10時 (参加者:92名)
「ナポレオン時代の装飾様式」
ジョレミー・ブノワ(ヴェルサイユ宮殿美術館学芸員)
*共催:メゾン・デ・ミュゼ・ド・フランス
- 6月8日(木)18時 (参加者:63名)
「近代美術家におけるフランスと日本」
瀬木慎一(美術評論家、総合美術研究所所長)
- 11月14日(火)18時 (参加者:28名)
「国立西洋美術館の現在と未来~変様する日本文化の定点観測地~」
青柳正規(国立西洋美術館館長)

5) 教養講座

- 「フランス革命を生き残った男たち」(5月9、16、23、30日・各火曜日、13時30分~15時)
遅塚忠躬(元東京大学教授、お茶の水女子大学名誉教授)
(参加者:25名)
- 「20世紀フランス小説の流れ」(11月1、8、15、22日・各水曜日、14時~15時30分)
岩崎 力(東京外国語大学名誉教授)
(参加者:21名)

6) エントランス美術展

- 4月・山口紀子(和紙こより造形) 5月・田中恵美(木版画)
6月・土屋雅敬(油彩「あとかた」) 7月・たうち定義(木、墨 造形)
8月・Charles Glover(写真「海」) 9月・Michel Rovelas(油彩)
10月・Jacques Pezeu-Massabuau(写真「水」)
11月・福室みずほ(アクリル・ペインティング) 12月・豊田正秋(漆、脱活乾漆造形)
2月・山島健司(ペン「線のあつまり」) 3月・梶原敏子(アクリル・ペインティング)
・齋藤芳弘写真展「ギイ・マルタンの芸術」(1月)

7 日仏学生交流「日仏学生フォーラム」

本年度はフランスにおいて日仏学生会議を開催(9月9日~24日)。
日本側22名、フランス側18名の学生が参加し、「Luxe」をテーマに討議、シンポジウムを開催。

8 広報・出版事業

- 1) 「日仏文化」73号刊行
- 2) 「Nouvelles」(ヌーヴェル、日仏会館・日仏協会通信)116,117,118号刊行

9 親睦会

新年会：1月30日（火）12時 於：フランス大使公邸 （参加者：185名）

10 地方日仏協会との交流

11月11日（土）山梨日仏協会と協力し、甲斐路日帰旅行開催 （参加者：33名）

* 共催：日仏経済交流会・在日フランス商工会議所

11 フランス人学者等受入れ

a. フランス学長

フランソワーズ・サバン（フランス国立社会科学高等研究院：中国学）

b. 研究員

リオネル・バビッチ（立教大学アジア地域研究所：日朝関係史、日本近代史、日本近代思想史）

アンヌ・ゴッソ（ボルドー第3大学、武蔵野美術大学：日本デザイン史）

セバスチャン・ルシュヴァリエ（フランス国立社会科学高等研究院日本研究所、経済学）

c. 学賓

講演会・セミナー等に参加するため、76名の研究者が会館6F客室に滞在